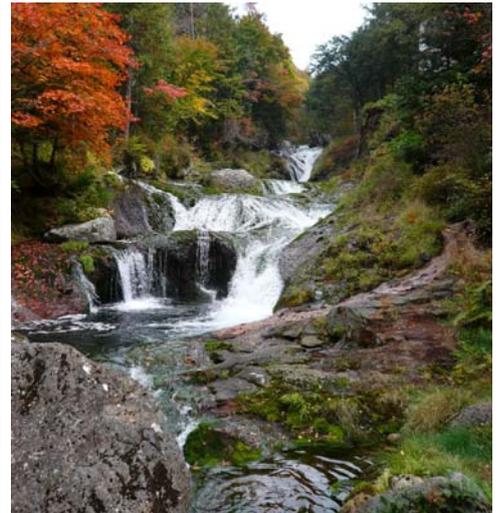


2. 冷山口から 褐色の鉄の谷「横谷溪谷」を紅葉と滝を楽しみながら下る

2.1. 冷山口から紅葉の森 諏訪鉄山明治鉱区跡を抜け、横谷溪谷へ

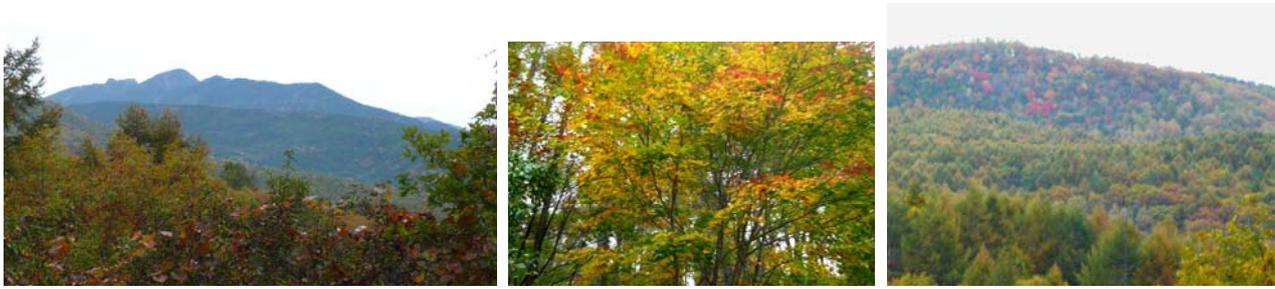


17日朝8時50分 麦草峠から茅野へ降るバスを冷山口で降りて、左手の森の中 渋川が流れ降る横谷溪谷へ下っていく。

この山の斜面一帯には紅葉が素晴らしい森の中別荘地がひろがる一本道。紅葉した木立が美しい。別荘が林の中に点在しているのがちらちら見えるが、地番を示す立て札は立っているが、道の案内板まったくなし。幹線の道を外れ別荘地の中に入り込むと大きな区画に区切られた林の中 網の目のように道がはりめぐされ、人っ子一人いない森の中。迷い込むとどこに出るか解からない。地図を眺めながら降る。また、この道の左手に山腹北斜面が広がる冷山は縄文時代の石器材料 黒曜石の原産地でもあるという。



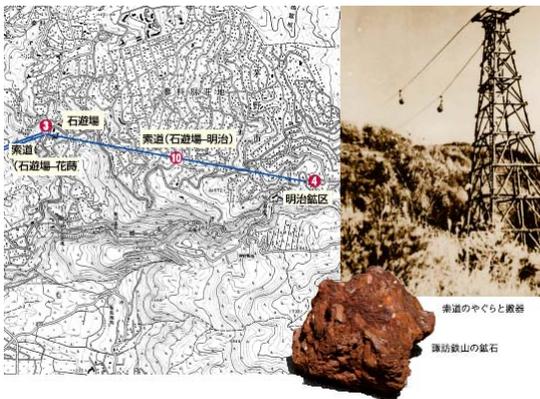
冷山口バス停直ぐ下に奥蓼科温泉郷に行く案内板があり、そこから左手 別荘地が続く森の中に入る



林の中を快適に降ってゆく。
紅葉した木々の間から別荘の建物が見えるのは西洋の絵画を見ているようだ。
正面に時折山が顔を出すのですが、本当に真っ赤。南八ヶ岳の岩峰も顔を出す。

冷山口から 15 分ほどゆったり散策を楽しんだところで、渋川温泉から横谷溪谷を経て溪谷の入口に出る道と奥蓼科温泉郷・明治温泉などの横谷溪谷最奥部への分岐にでる。

このあたりから下 渋川にかけての山腹が諏訪鉄山の明治鉱区で、ここからは 空には褐鉄鉱石を運ぶ索道が諏訪鉄山の石遊場から山裾の花蒔が通じていたという。ぐるりと周りを見渡すが、今はまったくそんなおかげもない森の中。静まりかえった山の別荘地の中の道である。



諏訪鉄山散策ガイドより かつての諏訪鉱山の索道



冷山口から 15 分ほど、渋川温泉から横谷溪谷を経て溪谷の入口に出る道と奥蓼科温泉郷・明治温泉などの横谷溪谷最奥部への分岐

この案内板で そのまま右手渋川温泉へ降ってゆけば、渋川温泉から渋川溪谷沿いの横谷溪谷散策路に入れたのですが、溪谷の一番奥にある明治温泉への標識が左手になっていたのでも奥蓼科温泉郷側から行くことにした。

その時はまだ 気がついていなかったのですが、考えてみれば このあたり歩く人などおらず、自動車のための案内板でした。地図を確認しなかった失敗。車で最奥の明治温泉とその裏にあるおしどり隠しの滝



へは 右側へ折れると行けない。真っ直ぐ奥蔭科温泉郷へ行く道は この谷から一旦山越えて 渋川の本流が流れ下る湯のみち街道側に出て、湯の道側から横谷溪谷の最奥部 明治温泉まで行く車道でした。

別れからそのまま更に少し下がったところで、逆川橋に出合う。このサカサ川は横谷溪谷の上で渋川に注ぐ源流で この逆川を真っ直ぐ下ると明治温泉である。道はこのサカサ川を渡って真っ直ぐ山越えているのに気がついて今いる場所がはっきりした。

褐鉄鉱で赤くなっているか・・・と川を覗き込んでびっくり。岸の赤茶けた岩に 川の中は深い緑色。 浅い川でこの緑は異常である。

よく見ると この鮮やかな緑は透明な水の流れの中にある岩の表面に何かコケ状の植物がびっしり張り付いている。

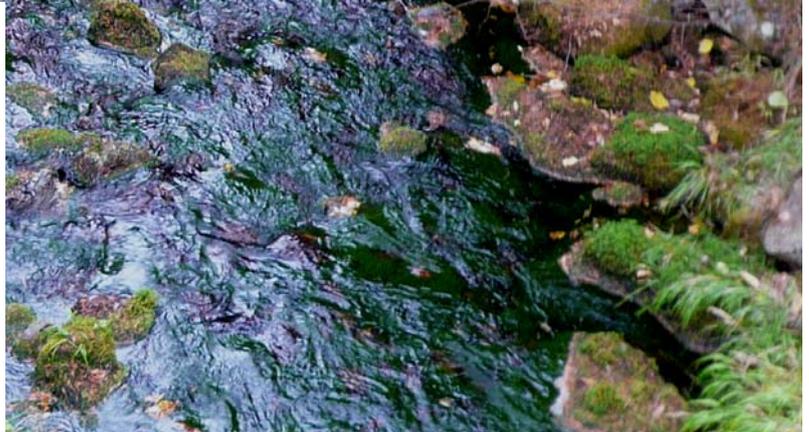
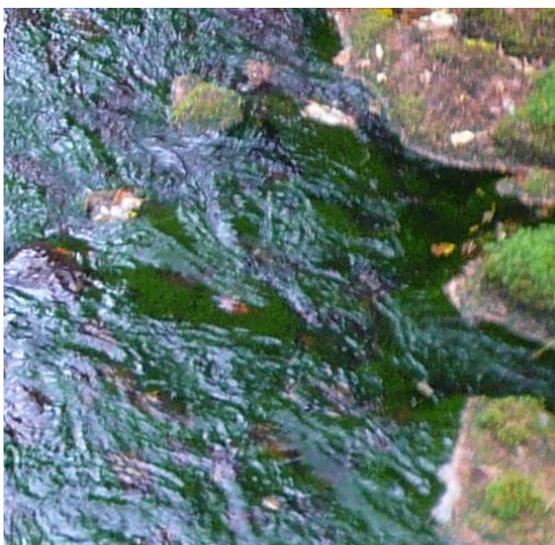
この逆川は「逆川が渋川本流の源流部よりも 鉄分を含むきつい酸性泉を川に流し込んだことが、横谷溪谷「赤の谷」の景観を作った褐鉄鉱沈殿の一因」と資料でよみましたが、それとこの川の緑色と関係があるのだろうか・・・。

赤い鉄の谷の特徴か・・・・・・。 そういえば 酸性度の高い草津温泉の川でもこんな光景を見た記憶がある。

そんなことを川を覗き込みながら考えていました。



褐鉄鉱の赤い谷 横谷溪谷の源流 逆川 逆川橋



横谷溪谷の源流 逆川の川底の岩にびっしり張り付いたコケ状の植物で川は深い緑色 岸辺には表面が赤茶けた色の石がゴロゴロ

2010. 10. 17. 横谷溪谷の源流 逆川の逆川橋で

私は良く知らなかったのですが、この植物は「チャツボミゴケ」といい、硫黄泉などの酸性泉に限って生育する特殊なコケで、鉄を溶かし込む鉄泉が流れ込む川原にも河原の岩にびっしり付着し、ピロードのように敷き詰められた河原と流れが形成され独特の景観をみせるところがあると。〔 草津の近く群馬県六合村 この渋川の緑も知る人ぞ知る群生地だそうだ

逆川橋を横切って 山腹を巻きながら尾根筋を越えるとメルヘン街道と横谷溪谷を挟んで反対側の左岸の山腹を登って本流の最奥の渋温泉に向かう湯みち街道との出会いに出て、ぱっと視界開ける広い谷筋となる。気がつかない間に 森の中で渋川の本流部も渡ってしまっていた。 この出会いから湯のみち街道を明治温泉に向かって下る。

ところどころの道端に石仏がかざられ、対岸の山の紅葉が素晴らしい。



渋川本流の最北部 渋温泉に向かう湯のみち街道との出会い周辺



湯のみち街道沿いには石仏がところどころに祭られ、谷の反対側の紅葉が美しい

湯のみち街道から少し下るとジグザクのヘアピンカーブの急な坂で山腹を折て行く。カーブの突端からは遠く南アルプスを背に茅野の町がみえ、まだ、随分高い位置に居ることがわかる。

今秋 まだすすきを見る機会がなかったが、きれいなすすきが風にそよいでいる。



湯のみち街道 冷山の山腹をジグザクに下る峠道からはと浮くアルプス・茅野の街が見晴らせました

まだまだ 森の中を歩いてきて どの程度下ったのかよくわかりませんでした。 高き山の中 また、下左写真の左手山中に小さな池が、横谷溪谷を挟んで明治温泉の対岸周辺の湯の道のそばにある御射鹿池

地図を出して 位置の確認をする。

この山腹をジグザクの坂を下りきったところが明治温泉入口で 眼下に左手の山中に見えている池が 明治温泉下の横谷溪谷の南岸の山腹にある「御射鹿池」。 まだ 随分下である。

これも後で知ったのですが、前日長野の東山魁夷美術館で見た「白い馬の見える風景」のモデルになった池だと。「知っていたなら 立ち寄ったのに」とちょっと残念。



「白い馬の見える風景」のモデルになった「御射鹿池」

麦草峠からメルヘン街道を下って 冷池口から歩き出して約1時間。

ジグザクの坂を下ると、正面に横谷溪谷の崖が現れ、道が 90 度折れ曲がって更に下ってゆく。 その曲がり角に車が数台とまっています、その横に明治温泉の案内板が立っている。

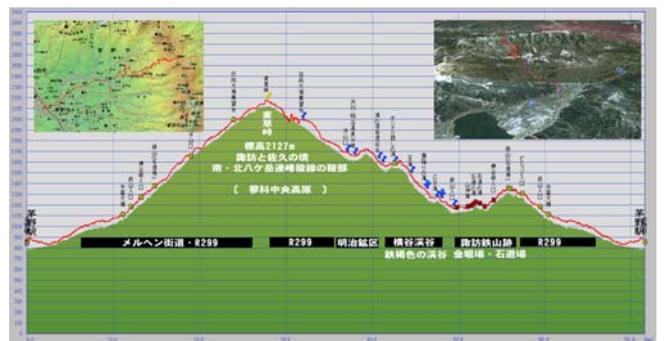
ここから、右に溪谷の崖に沿って歩けば明治温泉。

鉄の赤い谷 横谷溪谷の上の入口である。



湯のみち街道 明治温泉入口 2010. 10. 17.

車はここでストップ 入れないが、右へ崖沿いの細い道を入れれば 明治温泉である



2.2. 鉄の赤い谷「横谷渓谷」walk

2010. 10. 17.



オシドリ隠しの滝



王滝



一枚岩



霧降りの滝



乙女の滝



横谷峡の上流側から入って、渓谷沿いにつけられたハイキング路を通して、下流側の横谷峡まで歩く。

横谷川沿いには渋川に温泉水をながしこむ温泉が幾つもあり、また、周辺の山はかつて褐鉄鉱を産出した鉄の山。

このため、横谷峡の水質は鉄分を豊富に含む酸性となり、空気に触れると水酸化鉄を析出し、岸边にある岩石の表面を褐色に染め、赤い谷を形成する。また、この酸性度の高い水は「チャツボミゴケ」を大発生させ、河床や、岸边の岩を緑に染める。

「紅葉に彩られた狭い渓谷をつくる渋川の流れ

鉄分で赤く染まった川床を緑の岩に水しぶきをあげながら 素晴らしい滝となって流れ下る

古いハケ岳の噴火で形成されたこの蓼科高原の特徴が結実した 素晴らしい鉄の赤い谷 それが横谷渓谷。

そして 周囲の山に大量に埋蔵された褐鉄鉱石が諏訪鉄山の名で掘り出された。

「信濃の鉄」「みすずかる信濃」を強く印象付けるのが、「鉄の赤い谷 横谷渓谷」。

諏訪鉄山とともに この一帯に豊富にある褐鉄鉱と密接に関係した横谷警告 期待一杯で歩き始める。

【 横谷渓谷の概略 】：『ハケ岳 - 自然を楽しもう-』ハケ岳教本編集委員会【編】ハケ岳の地質及び気候 より

「横谷渓谷」は 麦草峠を分水嶺として 西側に向かって流れる渋川にありある。水量は豊富で、ほとんどが溪流といっても過言でないほどの渓谷で 乙女滝・霧降の滝・王滝・おしどり隠しの滝のある約3kmにおよぶ範囲を、横谷渓谷と称する。川に沿って、四つの滝を巡る遊歩道が整備されているが、上流部の王滝からおしどり隠しの滝のある明治温泉までは登坂勾配がきついところで、ハイキングのいでたちが必要である。



渋川は源流部の岩質と流れ込む温泉水によって 流域で水質が変わっている。

渋川源流の中山からの流水はpH=6.8なのですが、渋の湯の上周辺で硫化水素が溶けてpH=3.3となり、更に渋の湯で硫黄泉pH=2.7が流入して河床を約500m白濁し、さらに1.2km下流の明治温泉上方で褐鉄鉱を溶かした逆川が流入すると河床を赤褐色に変え pH=3.3となり、鉄山入口下の糸萱で 角明川と合流するまで続く。

この赤い鉄の谷「横谷渓谷」周辺にある温泉の主要特徴を資料より抜き出して 書き記すと次の通りである。

横谷峡に沿ってある蓼科温泉郷の温泉の特徴概略

温 泉	温度	泉質	PH	
洪御殿温泉	22.7℃	硫黄泉	ph 3.8	洪川源流
洪川温泉	23.4℃	鉄泉	ph 3.8	直ぐ近くに諏訪鉄山の褐鉄鉱採掘跡がある 逆川合流点の直ぐ下流
明治温泉	22.1℃	鉄泉	ph 3.8	直ぐ近くに諏訪鉄山の褐鉄鉱採掘跡がある 逆川合流点の直ぐ下流
横谷温泉	25.1℃	炭酸鉄	ph 5.2	
石遊の湯	64.2℃	Na-塩化物 ・硫酸塩泉	ph 6.9	褐鉄鉱の諏訪鉱山跡から湧出 透明ですが、多量に鉄分を含み 空気に触れると水酸化鉄を沈殿し、湯底の石が褐色

9時45分 湯のみち街道 明治温泉入口から 溪谷にへばりついてつけられた道を明治温泉に向かって歩き出す。道は急な下り坂。直ぐに谷の奥に赤い屋根の明治温泉の建物が見え、さらに奥に建物が見えているのが洪川温泉だろう。明治温泉は横谷溪谷の川底の縁にあるので、高度さ 25m ほどを一気に下ってゆく。

入口には一般車乗り入れ禁止の看板がありましたが、気をつけて そろそろ運転してゆけば、明治温泉の横まで行けそうである。

直ぐに狭い谷が見通せるようになり、真っ赤に紅葉した谷筋 明治温泉の直ぐ横で洪川に滝がかかっているのが見える。洪川が階段状になって、水しぶきを上げているのが見える。これが オシドリ隠しの滝である。

本当に周囲の山の緑に取り囲まれ、秘境の中の滝である。まだ 遠いので音は聞こえないが、深い谷にひと一筋の滝ここからは絵になる景色である。



明治温泉の横にかかる「おしどり隠しの滝」遠望 20210. 10. 17.



表面が鉄分で赤くなった岩の間を流れ下るオシドリ隠しの滝
2010. 10. 17.

10分ほどで明治温泉の前を通過して川底に下りると直ぐ横に何段にも分かれて、流れ下るオシドリ隠しの滝が見渡せる。落差はさほどでもないのですが、水の轟きがひびきわたり、水に濡れて一層赤い岩の間をしぶきを上げながら白い糸が縫うように滝の釜をつなぐ。水に満たされた釜は透明なのですが、その底は深い緑に満たされている。滝の両側の溪谷は紅葉でおおわれ、岸の赤い岩の上のあちこちに緑のコケが群生している。現地に来るまでは「紅葉した木々をバックに赤い岩肌で覆われた谷筋を水しぶきを上げて流れ下る」とイメージしていたのとはまったく違うのですが、素晴らしい色彩に満ちた谷。

鉄分を豊富に含む強い酸性の温泉水が流れ込む渋川 水しぶきを上げるこの水が空気に触れ、褐色の水酸化鉄を析出し、川床や岸辺にある岩石の表面を褐色に染め、赤い谷を形成する。そして、この酸性度の高い水は 緑のビロードを敷き詰めたチャツボミゴケを大発生させ、河床や、岸辺の岩のあちこちを緑に彩る。それらに呼応して、谷筋の木々が真っ赤に紅葉する。

「これが、鉄の谷なんだ」と勝手な解釈 想像とはまったく違うその素晴らしさにしばし見とれていました。



川べりの水溜りをのぞくと 表面が茶色に変色した石や緑のコケが張り付いた石。これがこの景観を作っている。

上の写真右手から褐色の帯が川に流れ込んでいる。これは 明治温泉の御泉水がそのまま空気酸化され、褐色の水酸化鉄を析出しながら、渋川に流れ込んでいるのだろう。

いたるところ小さな水溜りで褐色の水酸化鉄が沈殿している。



この川筋のいたるところ 岩に張り付いたチャツボミゴケと水酸化鉄、

これが、沼鉄の始まりと考えられ、川筋

の湿地などに流れ込んだ鉄分を含んだ水が長期にわたり繰り返し積み重ねられ沼鉄 そしい褐鉄鉱の鉱床が形成されていったと考えられる。いいかえれば、今も この川筋周辺では褐鉄鉱の鉱床形成が延々と続いているといえるのかもしれない・

横谷峡のハイキング路はこの渋川をオシドリ隠しの滝の前で渡った対岸の川底から 10 数 M 上の崖の上を溪谷に沿って山腹にへばりついてつけられている。このハイキング路へ上る細い階段道がオシドリ隠しの滝の前から上へ登っている。



川底から 10 数 m 高いところ 横谷溪谷沿い 山腹に張り付いてつけられたハイキング路 2010. 10. 17.

ハイキング路にて、そのまま下れば、横谷峡入口なのですが、反対に少し登れば 先程 オシドリ隠しの滝の上側にチラッと見えていた渋川温泉。やっぱり 横谷溪谷の最奥 渋川温泉まで足を延ばそう。

地図によるとこの明治温泉周辺よりも谷筋が広がっていて、旧諏訪鉱山の明治鉱区の中で褐鉄鉱が掘られた場所周辺である。朝冷山口からはこの渋川温泉の方へ道をとらず、真っ直ぐ渋温泉側へ行ってしまったので、この周辺の地形をまだ見ていない。また、資料によれば、渋川温泉のところから黒曜石の石器が出たようだ。



視界の利かない雑木林の中 横谷溪谷沿いの傾斜のきつい山腹に渋川温泉まで細い道が続く。途中 山の斜面にぽっかり 穴が開いている場所があり、覗き込むと穴の中には赤茶けた石がゴロゴロ。どうも褐鉄鉱採掘跡のようだった。

5分ほどで不意に道の下方木々の間に渋川温泉の建物が見える。渋川温泉の地域に入りますが、建物の正面の方へ折れる道がなく、メルヘン街道 渋川口から降りてくる車道との合流点まで行って旅館前の広場へまわりこむ。人影がなくおかしいとおもっていましたが、旅館は閉鎖され、建物もあれていました。



渋川温泉への道との途中 山腹で見つけた褐鉄鉱の採掘跡らしき穴 2010. 10. 17.



閉鎖されて 誰一人いない渋川温泉周辺



渋川温泉の直ぐ下流の横谷溪谷は渋川温泉に入る直ぐ手前で終わり、渋川温泉のある渋川北岸側はなだらかな斜面が川に向かって広がっている。反対側は急斜面の山であるのと対照的である。旧諏訪鉄山の明治鉱区からは大量の褐鉄鉱が露天掘りされ、索道で採掘された大量の褐鉄鉱が下流の石遊場へ送られていったというから、これによって形成された地形なのかも知れない。

全体地形がよくわからないが、地図で見ると中国山地の砂鉄採取地に特有の地形とよく似ている。

渋川温泉前の広場にある渋川遺跡の滝と称する人工の滝は流れ落ちる水の鉄分で岩肌が真っ茶色になっていた。また、インターネットで「温泉周辺の川筋の湿地に鉄分がたまった場所がある」とあったので川岸まで降りて 周辺を歩きましたが、見つけることは出来なかった。

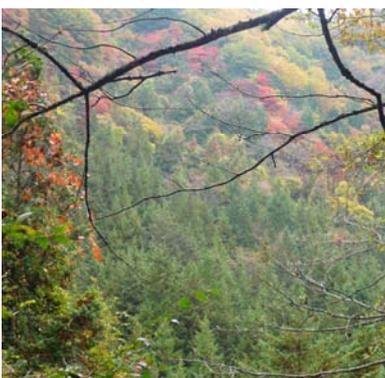
渋川温泉 閉鎖された旅館前の人工の滝 鉄分で抹茶色



渋川温泉横を流れる穏やかな渋川の流れ 岩や川底はここでも茶色にそまっていた 2010. 10. 17.



渋川温泉周辺も 美しく紅葉していました 2010. 10. 17.



もう旧諏訪鉄山明治鉱区の痕跡はありませんが、山中に突如現れるなだらかな地形と真っ赤に鉄分が張り付いた岩がその痕跡かもしれません。

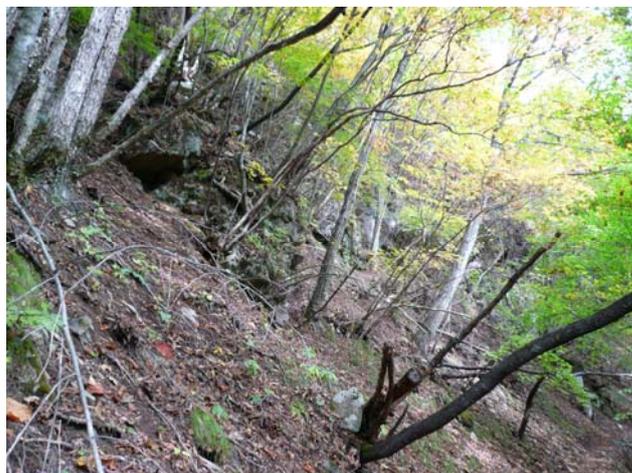
この周辺の紅葉も最高でした。

すこし、この周りを歩き回って、横川溪谷のハイキング路にもどり、明治温泉との分岐までもどり、そこからは そのまま横谷溪谷の下流側へ、約1時間 赤い谷と滝を楽しみながら 赤い谷を下りました。

このハイキング路のあちこちで、大きな石が山の斜面に転がっていました。この横谷溪谷は八ヶ岳噴火の溶岩と火砕流が運んだ凝灰角礫岩が主で滝などで顔を出すとともにこのハイキングコースのあちこちでその露頭が見られると。

明治温泉へのT分岐を過ぎて少し行った山の斜面に大きな石がゴロツと。よく見ると表面が赤みがある。

褐鉄鉱石かとも思いましたが、どうも溶岩のようだ。



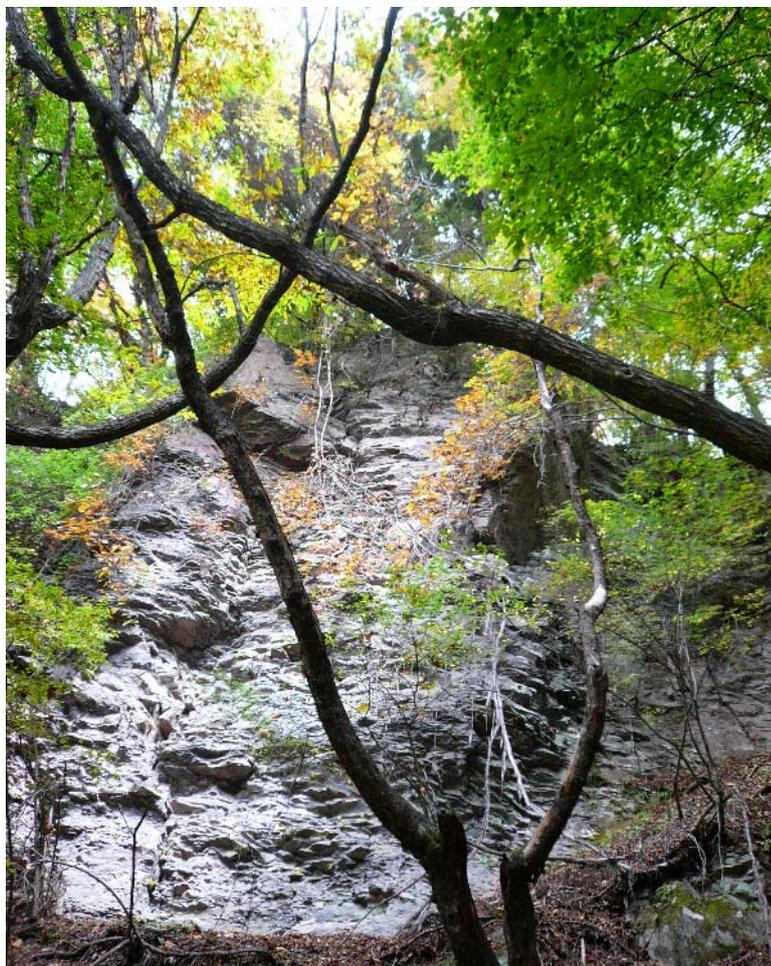
きつい傾斜の山腹につけられた横谷溪谷のハイキング路 時折巨岩が見られる



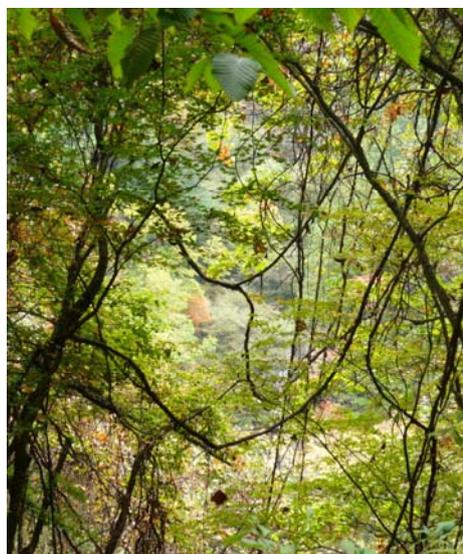
ハイキング路の道脇にゴロツと斜面から 溶岩露頭からすべり落ちた横谷峡を形成する溶岩だろうか??

前方の斜面の上方に幾重にも層状に固まった巨岩が見える。横谷溪谷溶岩の露頭なのだろう。

オシドリ隠しの滝の別れから 20 分弱で王滝の展望台へ降りる別れ。溪谷沿いの視界の利かない林の中ですが、木々を通して漏れくる光で紅葉が一層映える



層状の凝固境界が見える溶岩層の露頭



王滝への降り道



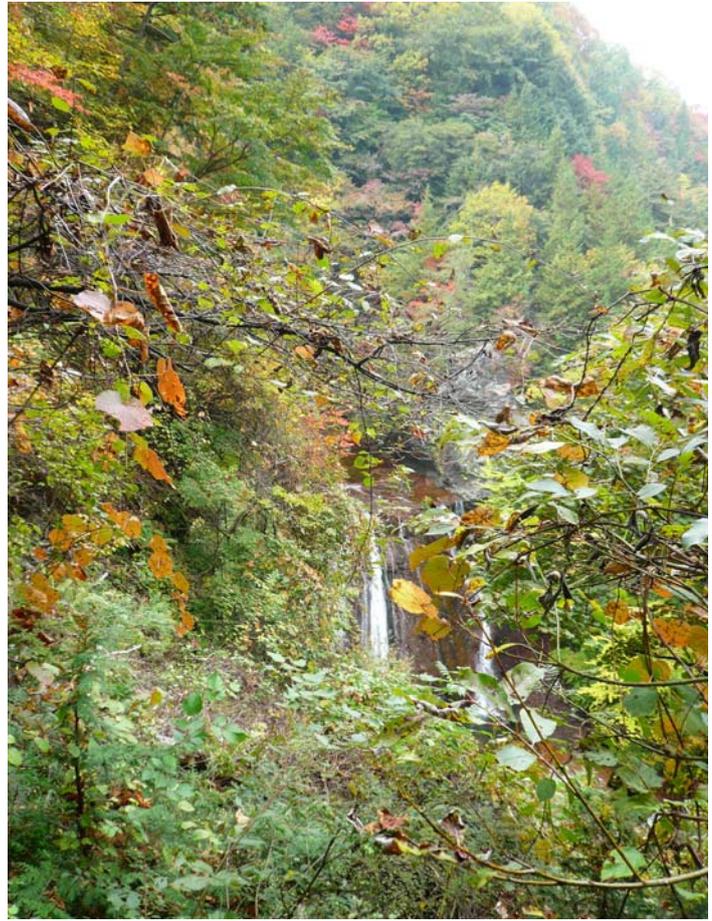
王滝への案内標識から、谷へ降りる道は急な階段状。急な道を下ってゆくと木々の間から、抹茶色の川床から流れ落ちる王滝が見えた。このあたりの溪谷は急峻で川底までは降りられない。もう少し下ったところで滝の全貌が見えた。

「これは すごい」 鉄分の付着で真っ赤にな谷筋 その川床から滝が垂直に落ちている。

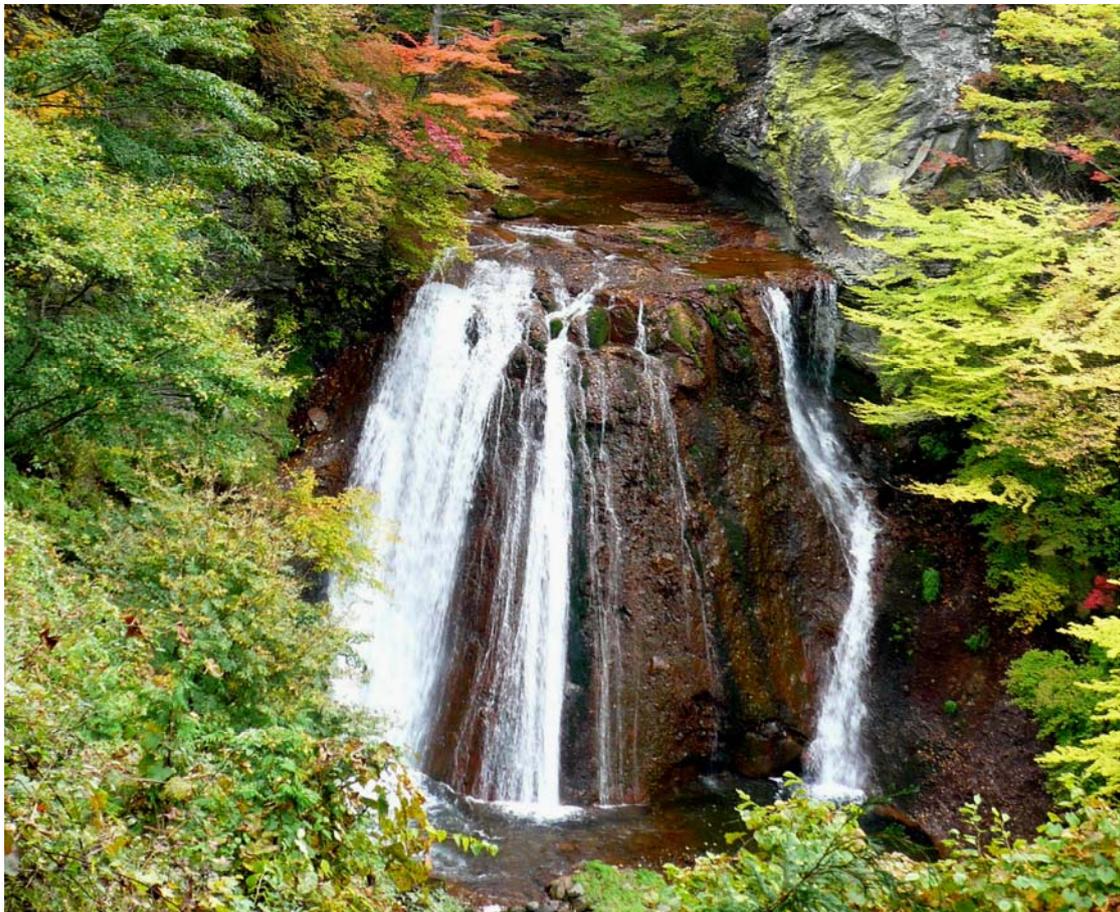
さすが 赤い鉄の谷 横谷溪谷の王者「王滝」と思える姿である。

こんなに鉄色にそまった谷を見るのは初めてのように思う。

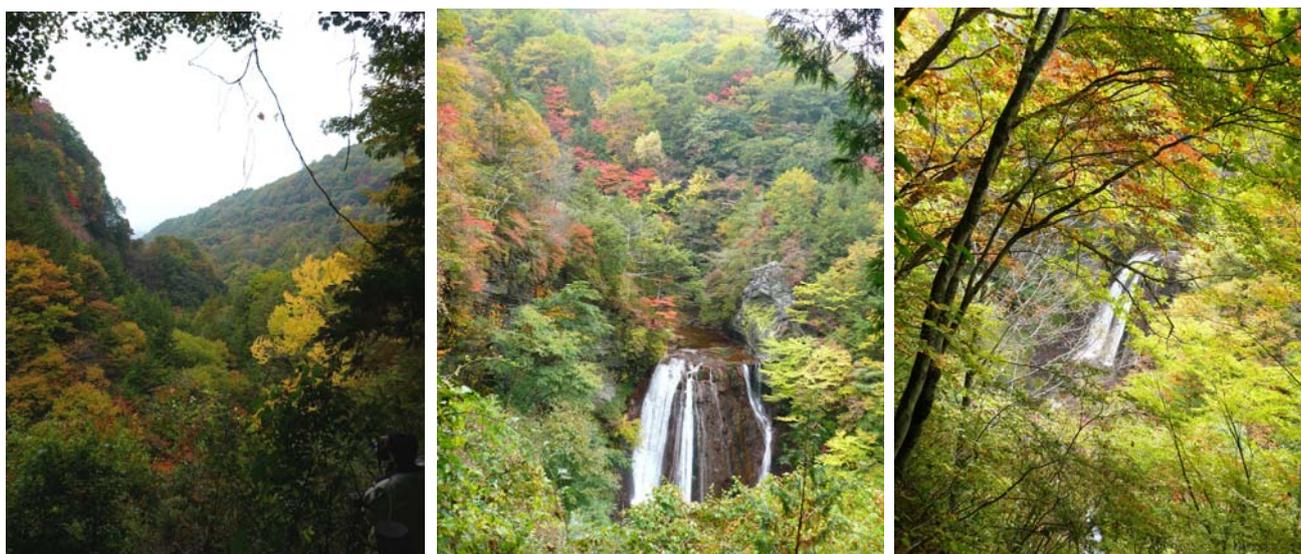
この王滝まで 下の「横谷峡入口」やメルヘン街道横谷観音から、広い散策路が通じているので、一気に人出が多くなる。



王滝への別れから谷へ降りる道 木々の間から「王滝」が現れた 2010. 10. 17.

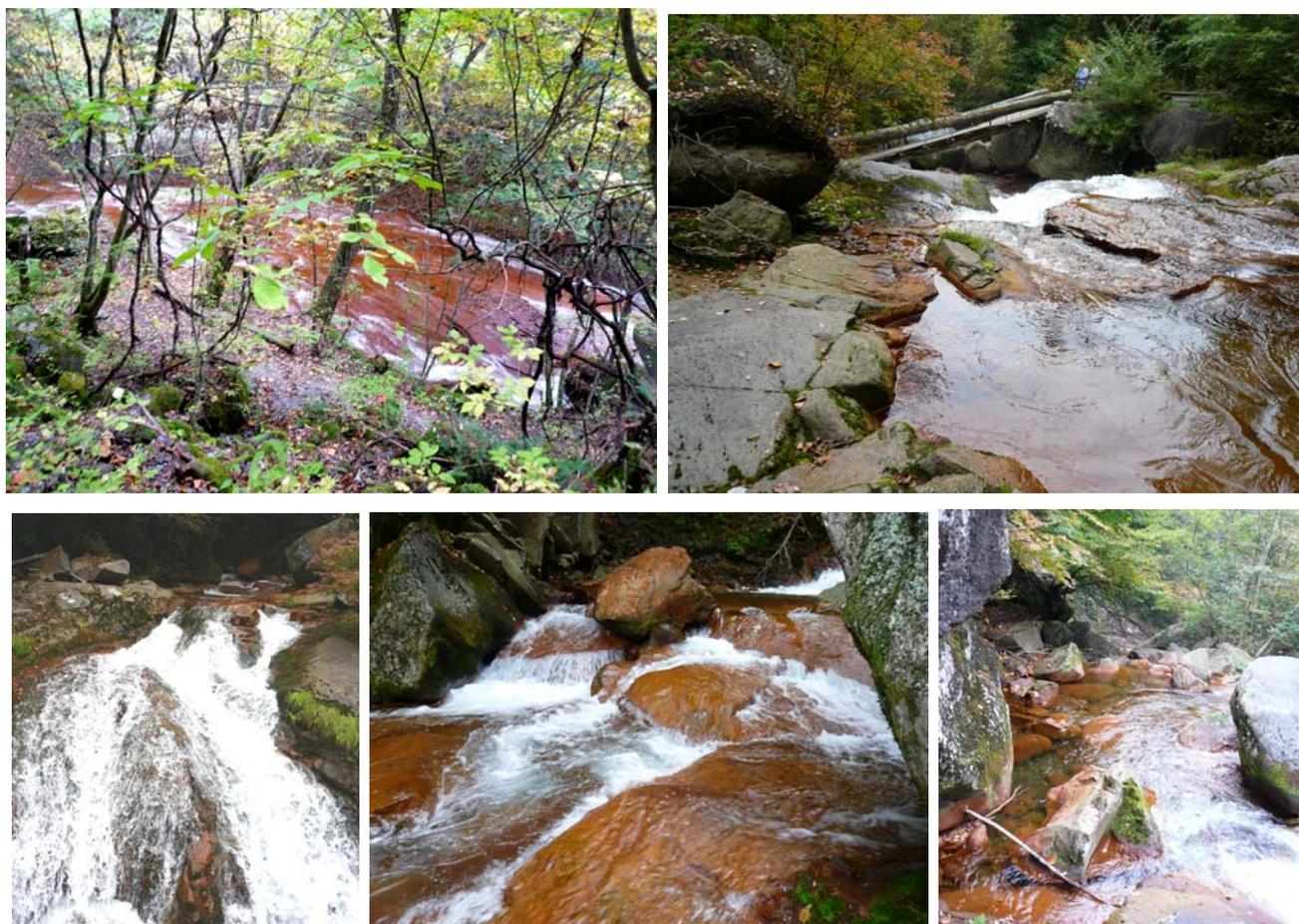


横谷 赤い鉄の谷 横谷溪谷の王者「王滝」 2010. 10. 17.



横谷溪谷「王滝」周辺の紅葉 2010.10.17.

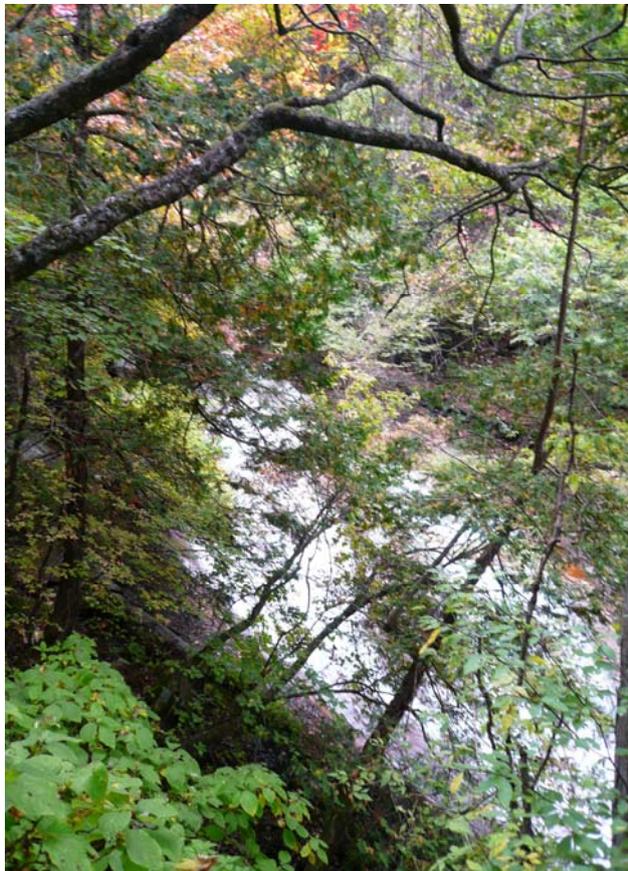
「王滝」のそばでは 川床におりられなかったが、その直ぐ下で 川床まで降りることが出来ました。
この王滝から下の横谷温泉までのあたりでは、川底全体が鉄分で褐色にそまっています、一番「鉄の谷」の様相を示しているようだ。 下の写真の直ぐ下流側には川床全体が一枚岩で、その表面全体が褐色で そこを透明な水が流れ下る「一枚岩」の名所もありました。



王滝から下の横谷温泉までのあたりは、川底全体が鉄分で褐色に 一番「鉄の谷」の様相を示している
2010.10.17.



横谷溪谷 一枚岩 2010. 10. 17.



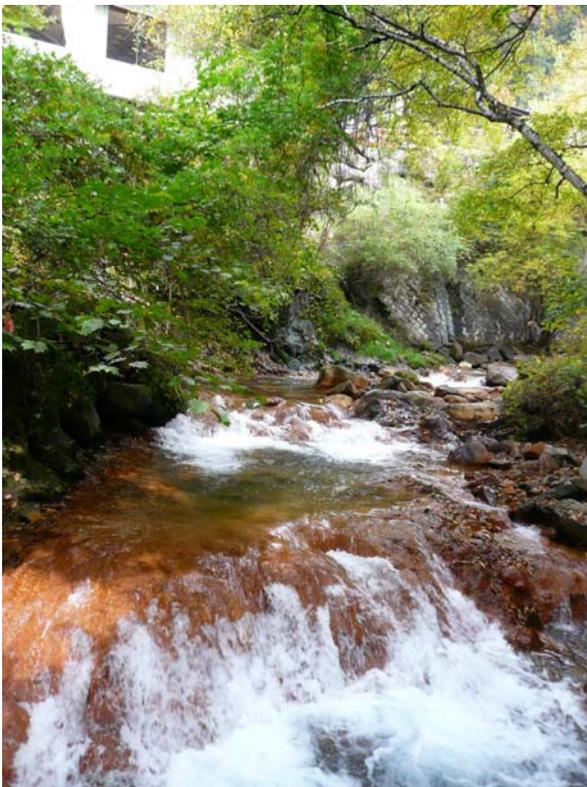
横谷溪谷 屏風岩周辺で 2010. 10. 17.



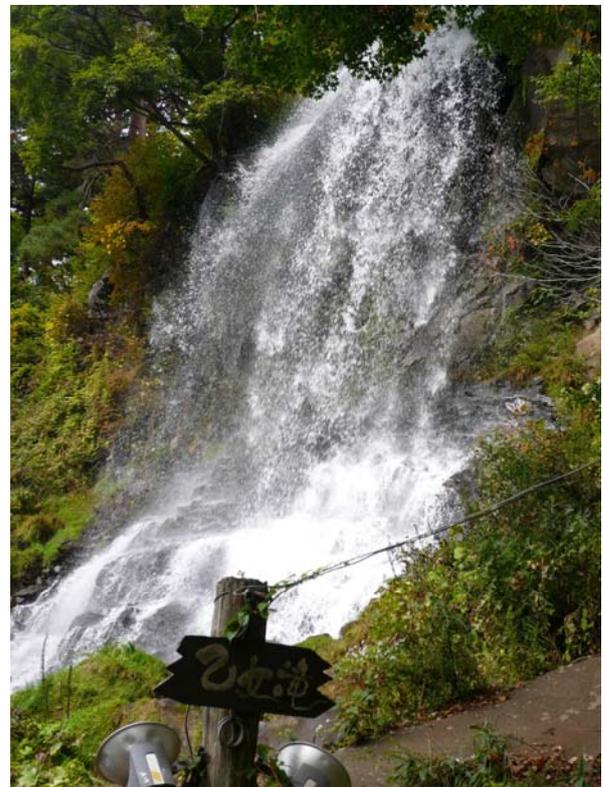
横谷溪谷 鶯岩



横谷溪谷 霧降の滝 滝左端 褐色なのは横谷温泉の御泉水の流れ込み



横谷温泉下 横谷溪谷 渋川の流れ



乙女の滝 江戸時代に作られた用水 人工の滝と聞く

明治温泉入口から横谷溪谷にはいて、約2時間 ちょうど紅葉が溪谷を彩る赤い鉄の谷「横谷溪谷」のwalk。本当にびつくりの楽しい溪谷でした。褐鉄鉱山諏訪鉄山の褐鉄鉱露天掘りの鉱区の山を流れ下る渋川が作る溪谷。

この川沿いの古い温泉は鉄分が析出で褐色に染まる鉄泉 そして 褐色の川床に行くもの滝がかかる。

みずずかる信濃の国の「鉄」この蓼科中央高原一帯に埋まっている「鉄・褐鉄鉱」を象徴する素晴らしい溪谷でした。

残念ながら 明治温泉も横谷温泉も日帰り入力の時間が制限されていて 入ることが出来ませんでした、ご機嫌。

後は 鉄山入口まで一旦下って 旧諏訪鉄山の遺構や地形を楽しみたい。また、鉄山跡から湧出した鉄分を含む「石遊の湯」に入るのも楽しみ。

12 時前に横谷峡入口まで来ると今日はこの地にある武田信玄ゆかりの木戸口神社の御柱祭御柱がまもなく到着するので、その準備がすすめられていました。



横谷峡入口の木戸口神社